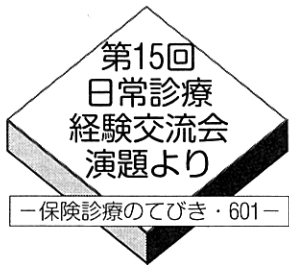




兵庫県保険医協会

☎ 078-393-1801

Fax 078-393-1802



# 知的障害児の口腔機能に関する臨床的検討

～アンケート調査結果より～

大槻歯科医院(三田市) 大槻 榮人

## 【目的】

小児期は、適切な口腔機能を獲得していく上で非常に大切な時期である。知的障害児の口腔衛生管理を行う際、咀嚼機能ならびに摂食状況を把握することが必要である。今回われわれは、障害児の口腔機能を把握するためにアンケート調査を行い、健常児との比較検討を行ったので報告する。

## 【対象】

3～6歳の健常な幼稚園児49人および知的障害児26人である。

## 【方法】(図1～3)

アンケート調査内容は、田中らの方法に準じ、摂食機能検査(4項目以上該当した場合異常あり)、嚥下機能検査(3項目以上該当すれば異常あり)、舌の随意運動機能検査(0から16点)であった。

## 【結果】(図4～7)

摂食機能検査結果では、健常児は「異常あり」であったものは33人(67.3%)であったのに対し、障害児は23人(88.5%)であった。

嚥下機能検査結果では、健常児は「異常あり」であったものは6人(12.2%)、障害児は6人(23.1%)であった。

舌の随意運動機能検査結果では、健常児は平均12.8であったのに対し、障害児は平均6.4で明らかに低位を示した。また、「食事中飲み物をよく飲む」と答えたものは、健常児55%、障害児50%、「固いものを嫌う」「歯ごたえがあり、噛みにくい食物を嫌がる」と答えたものは、健常児39%、障害児54%であった。

## 【考察】

障害児は、摂食機能ならびに嚥下機能検査において健常児よりも明らかに低く、「固いものを嫌う」「歯ごたえがあり、噛みにくい食物を嫌がる」傾向が明らかとなった。また、健常児においても摂食機能の異常や固いものを嫌がるものが半数近くを占め、「噛まない」「噛めない」小児が増加していることが示唆された。

これらより、「食事を楽しむものにする

**図1 摂食機能のアンケート**  
 ※該当する場合は○を、該当しない場合は×を記入

- 一度にたくさんの食物をほおぼる
- 唇を開けて食べる
- クチャクチャ音をたてて食べる
- 食べる間に舌を前方に突出する
- 食物や液体の容器を舌が迎えに行く
- 食べるのが早い
- よく噛まない
- 食事中、水、牛乳、お茶などをよく飲む
- 固い食物を嫌う
- 歯ごたえ(弾力)があり、噛みにくい食物を嫌がる
- 細かく、または薄く切った食物を好む
- 食物を奥歯で咬まず、前歯で咬んでいるような食べ方をする
- 食物や飲物が口の周りについて汚れる
- 食事中、食物をこぼす
- 口の中に入れた食物が唇の外にもれ出てくる
- 食事中によだれがでる
- うどん、ラーメンなどすらすら口に口の中におしこむ、或いはあまりうまくすれない
- くだもの種や魚の骨などをより分けることが苦手

※山口秀晴, 他: 口腔筋機能療法(MFT)の臨床 わかば出版 東京 1998

**図2 嚥下機能のアンケート**  
 ※該当する場合は○を、該当しない場合は×を記入

- 口の中に入れた食物を一度にゴクッと飲み込む
- 食物を飲み込まずに、のどにつまらせたり、飲み込まずに出す、吐き出す
- いつまでも口の中に飲物を入れていて飲み込まない
- 飲物を一口ずつ飲み込む(ため飲み)
- 少しあごを上げて(仰向けになって)飲み物を飲む
- 飲み物を飲む場合、容器の外側に飲み物が付着して、容器やテーブルが汚れる
- 食べながら、コップ、ストローで飲み物を飲む場合、食物がコップの中に入り、飲み物が汚れる(飲み物の中への食物の戻り)
- 飲み物、食物や唾液を飲み込む時に、舌が歯間に入る、または舌尖が下顎前歯舌側にある

※山口秀晴, 他: 口腔筋機能療法(MFT)の臨床 わかば出版 東京 1998

**図3 舌の随意運動機能に関するアンケート**  
 ※完全にできる場合は2、不完全ながらもできる場合は1、全くできなければ0を記入

- 舌尖をとがらす
- 上唇を舌で触れる
- 下唇を舌で触れる
- 口角を舌尖で触れる
- 舌で頬を押す
- 上唇の口蓋側に舌尖を付ける
- 舌打ち
- 舌でお皿の形を作る

※ 田口恒夫: 言語障害治療学 医学書院 東京 1966

こと、そして食べ方を指導する」ことにより、咀嚼における適応行動への道を開かせることが重要であると考えられた。

〔参考〕村田奈保、川上哲司、大槻榮人、雲丹亀真貴子、井上智裕、川上正良、桐田忠昭 『日本小児口腔外科学会雑誌』, 16(1):15-20, 2006

図4 摂食機能に関するアンケート結果

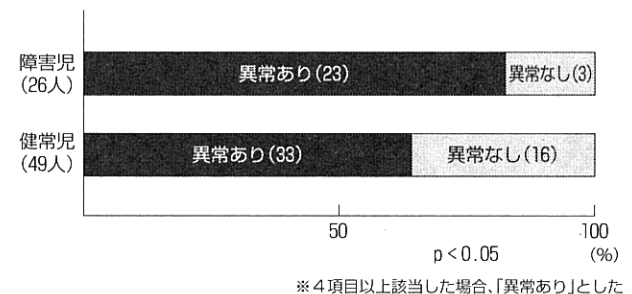


図5 嚥下機能に関するアンケート結果

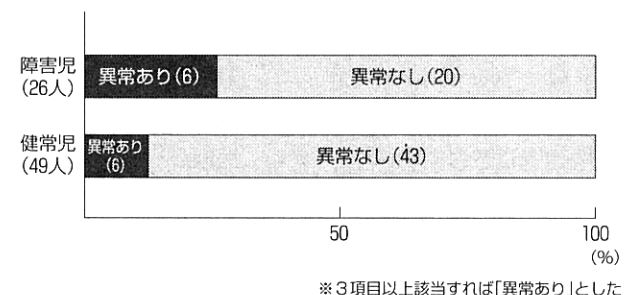


図6 舌の随意運動機能に関するアンケート結果

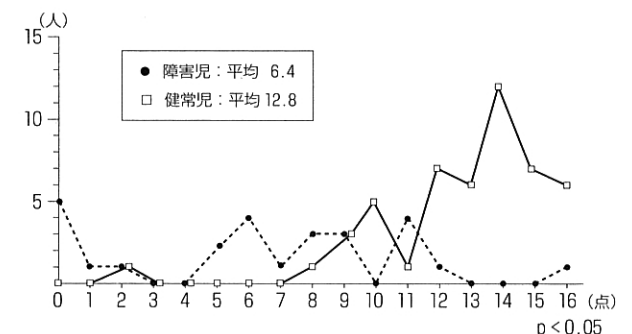


図7 摂食機能のアンケート調査結果(抜粋)

	障害児(人)		健常児(人)	
	該当する	該当しない	該当する	該当しない
食べるのが早い	8 (31%)	18 (69%)	8 (16%)	41 (84%)
よく噛まない	11 (42%)	15 (58%)	18 (37%)	31 (73%)
固い食物を嫌う*	17 (65%)	9 (35%)	20 (42%)	29 (58%)
歯ごたえ(弾力)があり、咬みにくい食物を嫌がる*	14 (54%)	12 (46%)	19 (39%)	30 (61%)

\*: p < 0.05